

2023 年度事業計画

(1) 糖尿病の予防及び治療に関する正しい知識の普及啓発事業

【市民向け】

- 1-1 「糖尿病ライフさかえ」の発行
月刊の協会誌として、糖尿病のある人、家族、予備群に対する糖尿病の正しい知識の情報提供と啓発を行う。会員の利便性向上を目指し、電子書籍版の発行も検討する。
- 1-2 糖尿病関連書籍の発行
「糖尿病食事療法のための食品交換表」、「糖尿病食事療法のための食品交換表活用編」、「糖尿病性腎症の食品交換表」、「糖尿病治療の手びき」を発行する。
- 1-3 全国糖尿病週間の実施
11月12日から18日の一週間を全国糖尿病週間とし、日本糖尿病学会との共催で、各都道府県糖尿病協会が糖尿病に関する講演会、血糖測定、医療相談、栄養相談の事業を実施する。
- 1-4 啓発イベントの実施
開催方式において対面とオンラインを適宜選択し、社会における糖尿病の正しい知識を啓発するイベントを実施する。
- 1-5 世界糖尿病デー関連のイベントの実施
日本糖尿病学会・本協会が構成する世界糖尿病デー実行委員会に協力し、世界糖尿病デーの認知向上と糖尿病知識の普及啓発活動を推進する。
- 1-6 Team Diabetes Japan の運営
国内外のマラソン大会等への参加を通じて、糖尿病予防や治療についての知識啓発を行う。
- 1-7 ウォークラリーの実施
対面開催を中心に実施するとともに、ウォーキングアプリを活用したオンラインイベント「歩いて学ぶ糖尿病バーチャルウォークラリー」を11月に開催する。
- 1-8 KiDS プロジェクトの展開
小児糖尿病啓発を目的に、教職員を対象とする出張教室を実施する。1型糖尿病と並行して小児2型糖尿病の啓発にも注力する。1型糖尿病の児童が在籍する特別支援学校での支援も強化する。
- 1-9 就労と治療の両立支援
就労世代への啓発として、企業・患者・医療者それぞれに働きかける事業を実施する。
- 1-10 デジタルツールによる知識の普及
治療支援 DVD シリーズやウェブサイトと新聞を連動させた情報発信の仕組み等を活用して、合併症予防の啓発を行う。高齢糖尿病患者向け学習アプリの無料配布により普及を目指す。
- 1-11 糖尿病関連企業 EXPERT 社員認定制度
糖尿病関連企業の社員に対する啓発として、日糖協 e ラーニングを活用した教育と認定試験を実施する。
- 1-12 食事療法の新しい啓発資材の開発
新たな食事療法啓発資材「食事の工夫シリーズ」の普及を推進する。
糖尿病腎症の食事療法のかきくけこの改訂を行う。

【医療者向け】

1-13 「DM Ensemble」の発行

医療者を対象とするオンライン雑誌「DM Ensemble」を6号発行する。

1-14 登録医・糖尿病認定医・登録歯科医制度の展開

日本糖尿病協会登録医・糖尿病認定医制度の発展に向けて認定試験導入を検討するとともに、日本歯科医師会とともに登録歯科医制度を推進し、糖尿病専門医と非専門医、歯科医師との連携強化を図る。

1-15 日糖協 CDE ネットワークの運営

CDEL 養成団体の活動を支援する。日本糖尿病協会年次学術集会や CDE ネットワークブロック別運営連絡協議会の活動を通じて、CDEL 団体の情報交換・交流の機会を提供し、CDEL の質の向上と団体間のゆるやかな連携を促進する。

1-16 糖尿病カンパセーション・マップ™を活用した糖尿病学習支援の普及

「糖尿病カンパセーション・マップ™」を使用して糖尿病学習支援を行う医療スタッフを育成するトレーニングを対面を中心に実施する。エキスパートトレーナーも養成する。

1-17 糖尿病カードシステムを活用した診療支援の普及

糖尿病カードシステムの普及に向け、実地講習会と動画視聴による自己学習を並行して実施する。カードシステムのさらなる発展に向け、デジタル化を推進する。

糖尿病腎症重症化予防にあたる地方自治体でのカードシステム導入研修会を実施するとともに、自治体と連携する医療機関に役立つカードセットを整備する。

企業の協力を得て、カードシステムミニレクチャーを実施する。

1-18 日糖協 e ラーニングの運営

既存の e ラーニングコンテンツの改訂を行うとともに、年次学術集会教育講演のコンテンツ化を通して、医師、歯科医師、CDE、糖尿病関連企業 EXPERT 社員等に糖尿病医療の学習機会を提供する。

1-19 日本糖尿病協会年次学術集会の開催

第10回日本糖尿病協会年次学術集会を、7月22-23日に国立京都国際会館で開催する。

医療者だけでなく糖尿病関連企業 EXPERT 社員など、広く糖尿病医療に関わる人々の情報交換とスキルアップにより糖尿病医療の発展に寄与することを目指して、参加型プログラムのさらなる充実を図る。2023年度は IDF-WPR Congress 2023 / 15th Scientific Meeting of AASD と同時開催する。

1-20 地域での医療従事者対象啓発活動の支援

登録医・糖尿病認定医・登録歯科医・CDE を対象とした講習会をはじめ、医療従事者を対象とした糖尿病に関する適正医療の普及・啓発に向けた地域での活動を支援する。

1-21 医療者・介護支援者の連携強化

糖尿病連携手帳を活用して医療者とケアマネジャー等介護支援者との情報交換を促進する。

在宅医療に従事する医療者が利用できる教育資材を制作する。

1-22 動画資材による学習支援

医療スタッフ向けの教育 DVD を活用して、チーム医療の浸透と医療者のスキルアップを支援する。

(2) 糖尿病の予防及び治療に関する調査・研究事業

2-1 調査研究

- ・経口糖尿病治療薬(インクレチン関連薬を含む)投与に関する実態調査研究(UNITE Study) 学術誌に論文を投稿する。
- ・インスリン製剤とシタグリプチン併用による有用性の検討-前向き観察研究-(I-UNITE Study) データ解析を行い、学会での報告ならびに学術誌に論文を投稿する。
- ・トホグリフロジンの安全性および有効性の検討-前向き観察研究-(AYUMI) データ解析を行い、学術誌に論文を投稿する。

2-2 研究助成

- ・糖尿病医療に関わる人材育成を目的に、臨床的・基礎的な研究を行う若手研究者を対象として、若手研究者助成を実施する。
- ・メディカルスタッフによる研究実施を支援し育成を図るとともに、糖尿病患者支援をテーマにしたエビデンスを創出することを目的に、糖尿病医療に従事するメディカルスタッフを対象として、メディカルスタッフ育成研究助成を実施する。
- ・日本糖尿病協会研究・教育基金を活用した研究助成を実施する。

2-3 「人を対象とする医学研究」の倫理審査

糖尿病医療のエビデンス作成に向けたメディカルスタッフの研究実施環境の整備として、糖尿病に関する研究の倫理審査を行う。

(3) 糖尿病のある人及び家族に対する支援事業

3-1 糖尿病友の会の活動支援

全国の糖尿病友の会の活動を活性化するための施策を実施し、会員相互の交流を支援する。また、友の会活動を核として地域の糖尿病対策に貢献できる人材育成を目指す。

3-2 糖尿病治療に役立つ協会グッズ、冊子類の発行

- ・糖尿病連携手帳の普及を促進する。使用を促進する資材も作成する。
- ・自己管理ノート、CSII ノート、ID カード、自己管理応援シール等の一層の利用拡大を目指す。
- ・食事療法を平易に解説した冊子シリーズ「糖尿病食事療法のあいうえお」「糖尿病腎症の食事療法のかきくけこ」、「食事の工夫シリーズ」「糖尿病の妊婦さんの食事療法」の普及を促進する。

3-3 小児糖尿病対策

- ・小児糖尿病キャンプの主催

糖尿病のある子どもの医療教育を目的とする小児糖尿病キャンプを対面で開催する。この事業は、Tooth Fairy プロジェクト（日本財団・日本歯科医師会）の支援を受けて実施し、開催に対し、補助金を支出する。

キャンプ未経験者や2型糖尿病の子どもの対象に、オンラインキャンプ「小児糖尿病バーチャルキャンプ」を実施する。

- ・1型糖尿病に関する移行期委員会への協力

日本小児内分泌学会・日本糖尿病学会・日本糖尿病協会合同の移行期委員会に委員を派遣し、移行期医療チェックリストの普及やコーディネーター制度の運用を支援する。

- ・次世代リーダー育成

各地で活躍する若手の1型糖尿病患者を次代の日糖協活動の担い手として育成するための教育研修会を開催する。

3-4 インスリンメンターの活用

インスリン治療を行う患者にピアサポートを行うインスリンメンターを、小児糖尿病関連事業に派遣する。また、各種学会や教職員向け研修会等にも派遣し、小児糖尿病の啓発を行う。

(4) 糖尿病に関する海外関係団体との連携事業

4-1 IDF、IDF-WPR

- ・IDF-WPR Congress 2023（7月21-23日・京都市）の開催に協力する。

4-2 AASD

- ・15th Scientific Meeting of AASD（7月21-23日・京都市）の開催に協力する。
- ・運営助成金を支出するとともに、事務局業務、年次学術集会の支援を行う。
- ・AASDが実施するアジア地域のフットケア・栄養プロジェクト等の開催協力をを行う。

4-3 中央アジアプロジェクト

中央アジア地域の糖尿病医療支援の目的で、同地域の若手研究者の日本への留学支援を継続する。

(5) その他本協会の目的を達成するために必要な事業

5-1 アドボカシー事業

糖尿病患者が直面する社会的障壁を払しょくし、糖尿病を持っていても社会で活躍できる環境づくりを目指して、調査研究やシンポジウム等の広報活動を行う。

5-2 会員増強

友の会会員、個人会員の属性やニーズを分析し、それぞれにあった入会促進策を実施する。

5-3 都道府県糖尿病協会の運営支援

地域の糖尿病対策の充実および会員増強を目指し、47都道府県糖尿病協会に対し地域活動費を支出するほか、糖尿病啓発に役立つ資材を提供する。

5-4 サポーター制度の周知

小児糖尿病と国際支援事業のサポートを目的とする、個人の賛助会員であるサポーターの増加を目指す。

5-5 他団体との連携

- ・CDEJおよびCDEL

各地のCDEL養成団体の活動を支援するため、補助金を支出するほか、CDEネットワークブロック別運営連絡協議会を通じてゆるやかな連携を促進する。

- ・日本歯科医師会

日本歯科医師会と連携して医科歯科連携を促進する。eラーニングによる学習機会を拡充することにより、登録歯科医の登録・更新増を目指す。

- ・日本糖尿病対策推進会議

日本糖尿病対策推進会議の幹事団体として、推進会議加盟の各団体と連携して糖尿病性腎症重症化予防など、国内の糖尿病対策事業を実施する。

- ・日本病態栄養学会

食事療法啓発資材の制作で連携する。

- ・日本薬剤師会

糖尿病医薬品・医療機器等適正化に関する周知で連携する。

5-6 災害時危機管理対策

- ・糖尿病医療支援チーム（DiaMAT）育成

日本糖尿病学会と連携して、災害時に連携可能なブロックごとの医療者の人材育成とネットワーク化を推進する。災害時に活用できる情報発信 SNS を運用する。

- ・防災資材の配布

災害時に役立つ情報をコンパクトにまとめた防災資材を HP で提供するとともに、各資材の電子化を推進し、利用者の利便性を向上させる。

5-7 広報事業

- ・日糖協の認知度を向上させ事業効果を高める目的で、プレスリリース配信やメディアセミナー開催マスメディアに対する広報活動を行う。

- ・ホームページ、facebook、メールマガジンでの情報発信

糖尿病の正しい知識、協会事業、入会の案内等の情報を掲載し、日本糖尿病協会の認知度向上を目指す。

5-8 糖尿病医薬品・医療機器等適正化

- ・インスリン注入器や、血糖自己測定器等の医療機器の適正使用に向けた啓発活動を行う。

- ・在宅医療廃棄物の適正処理に向けた啓発活動を行う。

5-9 製薬・医療機器・その他企業との連携

- ・各企業が企画する市民向け啓発事業の監修、共催、後援等を通じて、正しい知識を啓発する。

- ・各企業が患者向けに制作する情報提供資材の事前検証を行い、偏りのない正しい知識の普及を目指す。

その他

その他当協会の目的を果たすために必要な事業を、理事会の承認のもと実施することとする。